

# 豊も担い手も 「張り替えを」

広島市内の豊店でつる広島豊協同組合(三十五店)の役員十一人のつら、理事長の上野民治郎さん(七十一)など長老格の五人が、一斉に身を引いた。内紛ではない。「ジリ貧の豊業界に活を入れた」と、若い者に道を譲った。新しい発想で組合の活動を盛り上げ、豊のよき姿をアピールしてもらおうという狙いだ。

(桜井邦彦)

## 広島組合 年配の役員5人、一斉勇退



「今の世の中、昔のやり方は全国二千三百五十万枚、全国で放映した。キャッチ方じゃ通用しない」。続投で、十年前の約半分。フロアレスはこのままで望む声を振り切り、上野さんは今春の役員会で、戸平均の豊数も七枚と五三期六年務めた理事長から引退を宣言した。じや、原料のイ草は国内流通分の約六割を中国産に頼る。国内の作付面積はがた減りした。

## 若者に業界再興託す 10年間で需要半減

「わしらの世代は、頑固な職人肌、待つの商売をしてきたから、セリウスは苦手でねえ」。仕事歴五十二年の片岡利彦さん(六十八)も同市南区にも「引退組の一員」も同市南区には、人事の名前だけは残し、集りに似た思いが突き上げに立た。

### ■募る危機感

今年度の豊表の需要見込みも、業振協会の千葉豊はこの夏も、業振CMを制作し、

### ■20歳若返り

「豊が危い！」



## 「頑固」返上し積極PR

「私もいずれは退く身。業界への恩返しに、豊針の使いこなし方を若手にしっかり伝えておきたい。豊職人の魂みたいになんだから」

天然素材の豊には長所がたくさんある」と力を込める。

### ■「行動主義」

新役員のコットーは、行動主義第一弾に九月下旬、南区の特別養老人ホームで、ボランティアで古豊の表を張り替えていた。開設して三年半更新していなかった組合ホームページも一新し、今月中には「匠の技」と題して豊職人の誇り、手縫い作業の写真を載せる。

「自分で考え、きびきび動く若手たちは頼もしい」。最年長の理事、上本涉さん(七三)も「中区にはベテランでただ一人、ボランティア作業の現場を訪ね、見守った。上本さんの息子二人は会社勤め。「引退組」二人は会社勤め。同じだったが、後継者がいなかった。今年二月から、協同組合の練習会の講師を引き受け、若い豊職人たちに手縫い技術を任せている。

特報2003

「意見」情報をお寄せください。 tokuhou@chugoku-np.co.jp